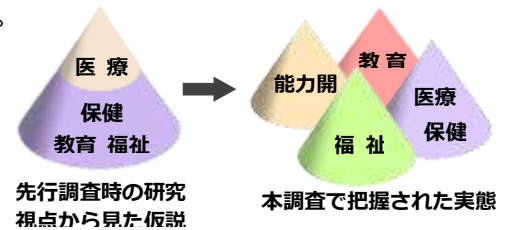


PAT 病理学的アートセラピー と EAT エンパワメント型アートセラピー

STEP 1 全国実態調査によって市井のアートセラピーの実態を把握する

- ① 活動の広がり、人口規模に比例して全国的である。
- ② 活動の主な目的は「支援」であり、「治療」を目的とするアートセラピー（精神療法・心理療法）とは区別する必要がある。
- ③ 活動は「保健・医療」「福祉」「教育」「能力開発」いう4つのサービス分野においてそれぞれに内発し、それぞれの分野の目的および環境、諸制度のなかで自律的に展開している。つまり、PAT が希釈され関連分野に拡大したのではない。

図1 アートセラピーの活動領域と関係



- ④ 多くがボランティアベースの運営であり、いかに持続させるかが課題である。
- ⑤ 活動家の立場は曖昧・不安定であり、活動の指針や活動家の構成要件も不明なため、活動についての正当な評価・判断が難しい。その結果、サービスの質に差が生じており、利用者に不利益をもたらすケースも見られる。

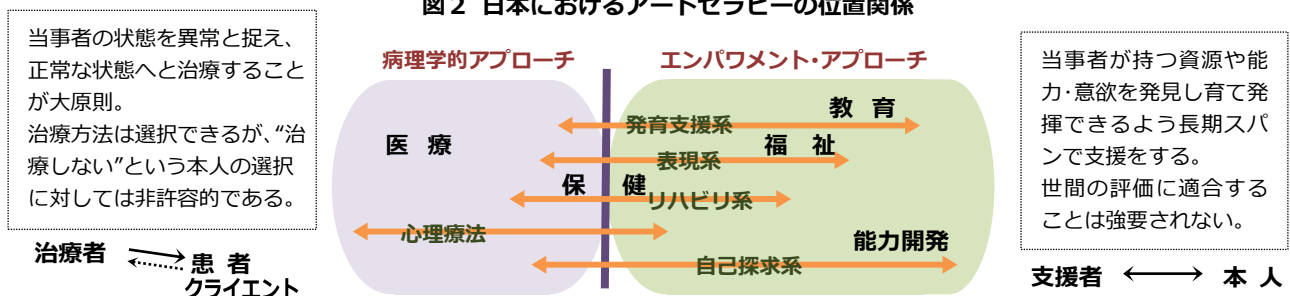
STEP 2 支援を目的とするアートセラピーの特性およびその立場を明確にする

【1】アートセラピー全体として5系統に分類する（別ページ参照）。

【2】支援を目的とするアートセラピーを、エンパワメント型アートセラピー [Empowerment Arts Therapy : EAT]「エンパワメント型アートセラピー [Empowerment Arts Therapy : EAT]」と定義し、精神病理学・心理学的アートセラピー [Psychopathological/Psychological Arts Therapy : PAT] と区別する（日本の医療制度の枠組にあるかないかも大きな相違点）。

市井のアートセラピーを「エンパワメント」と捉えたと、下図のようにアートセラピーを「病理学的アプローチ」と「エンパワメント・アプローチ」に整理できる。そして、2つのアプローチの対比によって、①～⑧のように、両者の相違点・共通点が明瞭になり、活動上の接合点、社会的な役割分業が具体的に検討できるようになる。

図2 日本におけるアートセラピーの位置関係



* 分類、区別は、境界づけや分断・限定が目的ではなく、多種多様なアートセラピーの混沌とした状況に一定の目安をつけ、適切な理解や評価が可能となるようにすること、また活動家にとっては、自己の立ち位置が認識できるようにすることが目的である。また、実際の活動内容は横断的で重なるところがある。